

29. ポートフォリオ評価

従来の評価活動は、学習が終了したところでテストを行ったり、発表会を開いたり、作品を評価したりするといったことが主流でした。

しかし、「生きる力」を育成するためには、従来の評価活動では不十分で、新しい探求活動のプロセスを重視した「ポートフォリオ評価」が重要になってきています。

ポートフォリオ評価とは

ポートフォリオとは、もともと画家や写真家が自分の作品をファイルする「紙ばさみ」を意味していた。彼らはこれに作品をファイルして、売り込みのときなど、自分の仕事の実績として相手に見せながら説明をするのである。このポートフォリオを評価に応用したものが「ポートフォリオ評価」である。

具体的には、子供たちの学習に即して、学習のプロセスと結果から生まれた「作品」を意図的に蓄積していく。蓄積していく「作品」は、完成品だけでなく、その完成に至る試行のプロセスを写し出したものも含む（メモ書き、聞き書き、他の人からのアドバイス、イラストなど）。そして、蓄積した作品を比べたり、整理したり、取捨選択したり、さらには先生、友だち、親や地域の人々にも紹介・発表したりすることで、子供自身が自分の学習を振り返ることも重要な特徴である。こうして、子供たちは、学習とともに評価の主体にもなっていくのである。

つまり、「ポートフォリオ評価」では、子供の自己評価を促すとともに、教師にとっては子供たちの自己評価も含めて、より深く子供の学習を捉えることができるようになるのである。

○ポートフォリオ評価の具体的な方法

- (1) 「不思議だな」「変だな」と、子供たちが思う小さなことをメモ（絵でも良い）させる
- (2) 新たな疑問が生まれたら、それもまたメモさせる
- (3) このような走り書き程度のメモ類を作品として蓄積していく
- (4) そして、ある程度作品の性格や量が決まり出したら、それを蓄積・保管する「入れ物」を用意する
- (5) このように作品が蓄積されてくると子供たちの問題や関心のありようを把握できるとともに、一定量作品が蓄積されたら、子供たちと一緒に作品を振り返って話しあう時間をもつ